

れんけい だより

Vol. 82

国家公務員 横須賀共済病院 広報誌
共済組合連合会

地域医療支援病院

救命救急センター

周産期母子医療センター

臨床研修指定病院

地域がん診療連携拠点病院

がんゲノム医療連携病院

神奈川 DMAT 指定病院

神奈川県災害医療拠点病院

DPC 特定病院群

病院機能評価(3rdG:Ver.2.0)



CONTENTS

地域連携懇話会 P 2

市民公開講座

がんと共に生きる P 4

三浦半島地域 緩和ケア研修会 P 5

第8回 夏休み特別企画 2024

ホスピタルツアー P 6

お仕事ニュース

薬剤科 ～化学療法室～ P 7

TOPICS

横須賀米海軍病院合同CPC開催報告 P 8

第1回 医療従事者研修会 P 9

NEWS

左心耳閉鎖術

WATCHMAN (ウォッチマン) 治療 P 10

命に向き合う

新人救急救命士のご紹介 P 11



地域連携懇話会

2024年7月4日
開催

5年ぶりの開催で、約330名の皆さまにお越しいただきました。
会場の所々では「久しぶり!」「元気だった?」などのお声が聞かれ、意見交換と共に親睦を深める機会となりました。

お越し頂き 感謝
申し上げます 長堀 薫



「がんと共に生きる」

～安心・安全ここが凄い!! 高精度放射線治療～

5月18日「市民公開講座」を開催し、当日は108名の方にご来場いただきました。
今後も地域の皆さまに「市民公開講座」で知識を深め、行ってよかった!と思っていただき、
医療に貢献できればと考えています。

総合司会



副院長 兼 地域連携センター長 豊田 茂雄

講演①

前立腺がんに対する放射線治療の進歩



講師 放射線治療科 部長 田山 芳史

講演②

膀胱がんの診断と最新の治療



講師 診療部長 兼 泌尿器科 部長 小林 一樹

講演③

当院における乳がんの診断と治療



講師 外科 医長 吉田 謙一

2024 年度 / 三浦半島地域 緩和ケア 研修会

PEACE

2024年7月21日 当院講堂において、三浦半島地域緩和ケア研修会を開催しました。

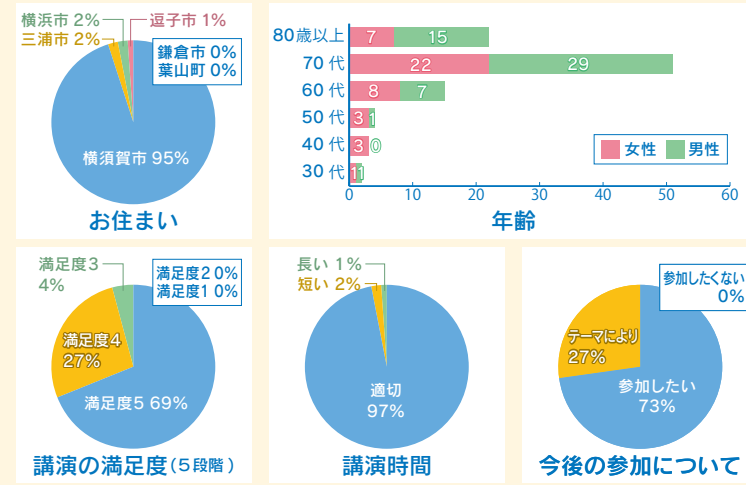
院内16名・院外5名 総勢21名での研修会となり、グループワークでは苦痛緩和の薬物・非薬物療法とケアに加え療養を支える地域連携についても話し合い、社会制度・社会資源について学ぶ時間を皆で共有できました。



緩和ケア研修会を修了することで算定できる加算

- ◆ 緩和ケア診療加算 (一般病棟入院基本料等)
- ◆ 緩和ケア病棟入院料
- ◆ 外来緩和ケア管理料
- ◆ 在宅療養実績加算2 (往診料等)
- ◆ 有床診療所緩和ケア診療加算 (有床診療所入院基本料等)
- ◆ がん性疼痛緩和指導管理料
- ◆ 在宅緩和ケア充実診療所・病院加算 (往診料等)
- ◆ 在宅悪性腫瘍患者共同指導管理料
- ◆ がん患者指導管理料

来場者アンケート結果



その他、ご意見ご要望

受講して良かったです。子供にも教えたいと考えています。ありがとうございました。

3人の先生の熱心で優しい診療の内容が分かり、とても良い病院だと思いました。ありがとうございました。

すばらしかったです。特に放射線の重要性を理解しました。

とても分かりやすかったです。どんな医療機器を使用しているかどのような治療をしているか知ることができ、患者さんも安心して治療にあたれると思います。

チーム医療が心強い!!と思いました。放射線治療について、わかりやすく説明をいただいて、良かったです。どんな病院か、ということがわかり、安心してかかれると思いました。

市民にもわかりやすい内容でご説明いただきありがとうございました。たまたま知ったセミナーの情報で途中参加でしたが、参加して良かったです。次回も参加したいです。



第8回 よこすか健康教室

夏休み特別企画 2024



ホスピタルツアー

7月27日(土)に「第8回 ホスピタルツアー」を開催しました。
小学4年生から小学6年生までの65人に参加していただきました。
色々な体験をしてもらい、医療に対する関心や興味を持ってもらうことを目的としています。
子供たちもツアーが始まると、緊張の面持ちから笑顔に変わっていき、
楽しい時間が過ごせたのではないかと思います。



イベント内容

薬剤科のお仕事

お薬の調剤業務を
体験してみよう

検査科のお仕事

エコー検査に
チャレンジしてみよう
エコーで体の中を
みてみよう

手術室の見学

手術室でのお仕事を
経験してみよう

救急の処置

心臓が急に止まった人を
助けるために
最初の5分で
できること!!

放射線科のお仕事

MRIって何?
見て・聞いて・感じて
体験しよう

リハビリテーション のお仕事

病気や障害を
もってくらって
どんなこと?

お仕事ニュース

薬剤科
～化学療法室～

認定薬剤師による 外来化学療法室での薬学的管理

～地域のあらゆる職種の方々と連携し、がん患者さんの安心・安全な薬物療法を支えたい～



近年、抗がん剤治療は入院治療から外来治療に移行しており、当院では年間約7,500件(月平均659件)の抗がん剤治療を外来にて施行しています。当院の外来化学療法室には、薬剤師が常駐しており、抗がん剤の投与間隔や投与量のチェック、前投薬の過不足がないかのチェック、副作用モニタリングやその対策の提案、服薬指導などを行い、患者さんが安心・安全に抗がん剤治療を受けられるように取り組んでいます。

また、年に1回、近隣の医療機関と協力して、地域の調剤薬局を対象にした合同研修会を開催しています。各医療機関の支持療法の現状などをテーマに取りあげ、地域の薬剤師が一丸となつてがん患者さんの薬物療法をサポートする体制の構築に取り組んでいます。

2024年6月より、薬剤師が医師の診察前に面談を行い患者さんの副作用を把握した上で支持療法薬の処方や抗がん剤の減量などについて提案し、医師の診療をサポートすることで、診療報酬が算定出来るようになりました(がん薬物療法体制充実加算)。この薬剤師による診察前面談により、副作用の発現率や重症度が軽減され、がん薬物療法の完遂率が上がるとも言われており、当院でも、抗がん剤治療の効果を上げるため積極的に取り組みを開始しています。



横須賀米海軍病院 合同CPC 臨床・病理検討会 (Clinico-Pathological Conference) 開催報告

横須賀共済病院と横須賀米海軍病院とのCPCが、2024年6月26日横須賀共済病院講堂にて開催しました。57名と多くの方が参加され、ディスカッションが行われました。



脳神経内科
医師 高橋 直

2024年6月26日、横須賀共済病院と横須賀米海軍病院(USNH)の合同カンファレンスが当院で催され、私は第一演者として発表させていただきました。脳神経内科医として、USNHからこれまでも患者さんを紹介いただいているギラン・バレー症候群についてでした。第二演題はUSNHでフェローをされている永井先生のご発表で、内科診断学の難しさを思い知らされました。

今回は英語での発表スキルを磨くのに絶好の機会であり、発表後の交流会でも海外のスタッフ方、また海外を目指す本邦の先生方とお話できたのは刺激となりました。今後も国際学会での発表等につなげていきたいと考えております。若い先生方も是非積極的にご活用ください。

最後になりますが、貴重な発表の機会を与えてくださった病院関係者の皆様に改めて御礼申し上げます。



医療従事者研修会 第1回 研修会の開催報告

2024年6月19日 療養指導士・認定看護師による、医療従事者研修会をWEB形式で開催しました。

第1部

これだけは絶対に押さえておきたい 糖尿病治療薬(基礎)



糖尿病療養指導士
薬剤師 中嶋 亮輔

今回の医療従事者研修会にはご多忙の中、多くの方々にご参加頂き心より御礼申し上げます。

今回は糖尿病治療薬の概要や副作用についてお話させて頂きました。お薬の飲み方や注射薬の使い方はなにげなく書いてあるように見えて、実はとても深い意味が込められています。どんなに優れた薬であっても、間違った飲み方や使い方では治療効果が十分に得られないばかりか、低血糖などの副作用リスクを上げてしまう可能性があります。

私達の周りには「糖尿病と診断された」患者さんは非常に多くいます。お薬を使っている患者さんも多いでしょう。中にはお薬が処方されていることで生活に制限をかけてしまう患者さんもいます。しかし、お薬の飲み方や使い方、副作用を正しく理解すれば糖尿病ではない患者さんと同じような生活をすることも可能です。そのためのサポートが重要だと考えています。患者さんが「糖尿病とうまく付き合う」ためには地域の皆様のサポートも不可欠です。今回の研修会がその一助となり、横須賀・三浦のチームの輪が広がれば幸いです。今後ともよろしくお願いいたします。

第2部

自宅で起きるかもしれない、その時にあなたならどうする！ ～糖尿病の事例を一緒に考える～(応用)



糖尿病看護認定看護師
福住 幸子

地域の皆様、平素より大変お世話になっております。お忙しい中多くの方にご参加いただきありがとうございます。少しでも皆様のお役に立てたのであれば幸いです。

糖尿病を持っている方が、現在は予備軍も含めて2,050万人います。

在宅療養で、基礎疾患に糖尿病を持っている人も多く、在宅療養ではインスリン注射がネックになってきます。今まで出来ていた人が出来なくなってしまうたり、その後をどのように支えるのかいつも悩ましく、葛藤をしております。

今回は、事例をもとに考えていただきましたが、責任インスリンやシックデイルールを意識した看護介入など考えていただきました。また、持続皮下グルコース検査やインスリンポンプ療法の紹介をさせていただきました。

日々、糖尿病治療も進化しています。糖尿病を持ちながら、患者さんにあった治療選択ができるようにサポートできたらと考えています。

糖尿病は静かに患者さんの身体をむしばんでいきます。日頃からの管理がとても大切ですが、特に高齢者独居の方は個人の力にも限界があります。地域の皆様のお力が必要になってくるので、今後ともよろしくお願いいたします。

左心耳閉鎖術 WATCHMAN (ウォッチマン) 治療



心房細動の
脳梗塞予防の新たな選択肢
出血リスクの軽減を目指して

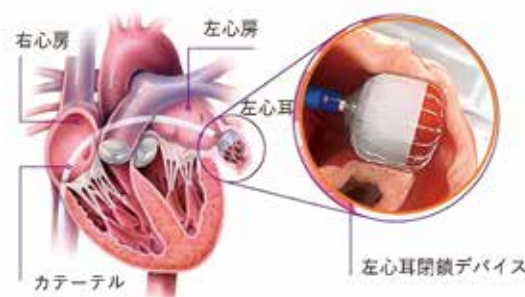
Profile

循環器内科部長
大久保 健史
Kenji Okubo

- 出身校** 北海道大学医学部
平成13年(2001年) 卒
- 専門分野** 不整脈疾患
・カテーテルアブレーション
(心室頻拍/心房細動など)
・デバイス治療(ペースメーカ/
除細動器など)
- 認定資格** 総合内科専門医
循環器専門医
不整脈心電学会専門医/評議員
WATCHMAN 指導医
リードスペースメーカ指導医
ICD/CRTD/S-ICD 埋め込み認定医
リード抜去認定医

左心耳閉鎖術 (WATCHMAN) は、非弁膜症性心房細動患者様の脳梗塞予防のための先進的なカテーテル治療です。心房細動の血栓のほとんどは左心耳に発生すると言われています。この手技では、カテーテルを用いて左心耳に特殊なデバイスを配置することで、左心耳の閉鎖をめざしています。適応は、出血のリスクが高いため抗凝固療法を継続することを避けたい心房細動患者様です。具体的には、御高齢の患者様、消化管出血・脳出血など出血既往がある患者様などが適応となります。

当院では左心耳閉鎖術の認定施設として多くの手術経験があります。少しでも連携医院の先生方のお力になれればと思っております。ご質問やご相談は、いつでもお問い合わせいただければ幸いです。



読売新聞 (2024 年 5 月 9 日 (木) 全国版) に取材記事が掲載されました

命に向き合う

新人

救急救命士のご紹介



救急救命士
大村 宙輝

新入職員の大村宙輝と申します。私は救急救命処置を行なう救急救命士に憧れを抱き、その中でも医療と深く関わることができる院内救急救命士に魅力を感じたため、志望しました。働いてみると、自分の対応力が不足していると実感しました。先輩方の処置や問診を参考に患者対応を学び、経験を積むことで現場対応力を養っていこうと取り組んでいます。一人ひとりの患者さんと向き合い、私にできる最善を尽くせるよう日々励んで参ります。

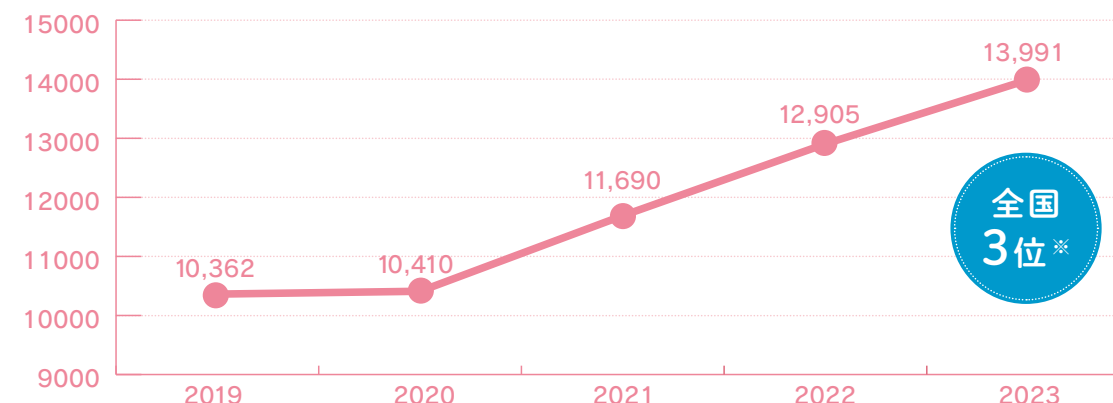


左から救急救命士 大村 宙輝、救急科 部長 土井 智喜、救急救命士 平岩 竜之介

救急車受入れ台数

当院には現在 2 名の救急救命士が在籍しており、医師や看護師などのタスクシェアリングへ大きく貢献しています。

今後はさらなる救急体制強化のため、救急患者搬送受入れ・病院間の転院搬送に力を入れてまいります。



※全国順位出典: 救命救急センターの評価結果 (令和5年) について
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000188907_00008.html



あゆみ保育園 サマーフェスタ

2024年
7月22日

子供たちは甚平や浴衣を着て、夏を楽しみました。
保育園の先生が、がんばって準備をした室内ゲー
ムのおかげで、子供たちのあふれんばかりの笑顔を
見ることができました。



退職医師

2024年4月付 ■循環器内科…高木 克昌

2024年6月付 ■脳神経外科…益子 悠
■外 科…舛井 秀宣、杉村 直彦

2024年7月付 ■内分泌糖尿病内科…中川 みすず

理 念

よかった。
この病院で

患者さん・家族・職員
すべての人が安心できる
病院をめざします

編集後記

日本の夏は高温多湿という特徴があり、この夏の暑さが原因で体調を崩される方が多くなっていると思います。

そんな日々の中、朝早くに美しい花を咲かせてくれる、朝の代表＝朝顔は見ているだけで清々しい気分へ誘い込んでくれます。

この暑さを乗り切るために、気持ちだけでも爽やかな気分を感じ、暑い夏を心地良く過ごす工夫をしてこの夏を一緒に乗り越えましょう。

今後とも、横須賀共済病院とれんけいだよりをよろしくお願いします。

地域連携室 宮坂・加藤・面川

国家公務員共済組合連合会
横須賀共済病院

〒238-8558 神奈川県横須賀市米が浜通 1-16
TEL 046-822-2710 (代表) FAX 046-825-2103 (代表)

地域連携センター地域連携室

TEL 046-827-1117 (直通) FAX 046-823-5020 (直通)

YKH れんけいだより
Vol.82

発行日：2024年(令和6年)8月29日

編集：地域連携センター地域連携室